

池田貞雄新任講師の紹介

長 石 忠 三

池田貞雄君は山口県萩市の出身。昭和35年3月京都大学医学部医学科を卒業、同大学医学部附属病院で実地修練を卒え、36年6月20日医師免許証を取得。

36年4月1日京都大学結核胸部疾患研究所胸部外科学部（当時は結核研究所外科学部）へ助手として入局、教授長石の指導を受け、41年7月1日助手に任用。45年11月16日講師に昇格して現在に至っている。

44年5月「肺癌患者の血清中に見出される異常抗原とその免疫学的分析」なる学位論文を提出している。ただし、京大医学部紛争に伴う学位審査の凍結により、いまだ学位は受けていない。

1本気の正義漢で、信じるころはそのまま主張するが、大学紛争でもやるべきことはやりとげるといったよい面を具えている。

大男に似合わぬ几帳面な性格で、その研究も細心かつ緻密に行なわれている。学位論文として一旦発表した仕事についても引続き問題点を追求するといった研究態度がみられることは称賛に値する。

研究領域は主として肺癌、とくにその免疫学的研究で、共著を含み、学会発表90、誌上发表14を数える。要するに、1個の男子としても立派であり、臨床家としても研究者としても有為な好青年である。角は人生経験が深まるに連れてとれるであろう。（昭和46年2月8日）。